

保幼小連携・接続推進事業 第4期(令和6・7年度)取組まとめ

－保幼小連携・接続の参考に－

子どもたちの学び・育ちが より豊かになることを願って



令和8年7月

大阪市保育・幼児教育センター

まえがき

就学前教育・保育施設と小学校の連携と相互の教育の円滑な接続をめざし、当センターで実施してきた「保幼小連携・接続推進事業」も8年が経過し、これまでに市内12小学校32園所の先生方に小学校を核とした「連携・接続」のあり方・進め方の研究に取り組んでいただきました。4期目にあたる令和6、7年度も2小学校5園所において、それぞれの地域での子どもたちの状況やこれまでに進めてこられた取組を踏まえ、子どもたち同士の様々な交流や体験はもとより、よりよい連携に向けて相互の先生方がともに協議しながら2年間の研究を進めていただきました。その中で実践された取組そのものも子どもたちにとってたいへん貴重な体験であったと思いますが、子どもの育ちや学びを軸にして、各校園所の先生方が顔を合わせ、相互の理解を深めながら連携のあり方を探る時間はたいへん有意義なものだったのではないのでしょうか。「連携・接続」のあり方は様々ですが、まずはお互いの顔が見える教職員の関係づくりが大きな第一歩になると考えています。本取りまとめは、その具体的な実践をまとめたものです。今後の各校園所における「連携・接続」の取組の参考としてご覧ください。

また、8年にわたり取り組んできた本事業の研究成果のまとめとして、「架け橋期のカリキュラム実践ハンドブック」を本年2月に教育委員会との連携のもと作成いたしました。現在、国においても教育・保育に係る次期要領や指針等の検討が進められているところですが、その中でも子どもの学びの連続性を踏まえ、就学前教育・保育施設、小学校の双方における「連携・接続」の意義やその強化が示されることかと思えます。本取りまとめとあわせて、是非ともご覧いただき、今後の取組に活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、保幼小連携・接続の研究を進めるにあたりご指導を賜りました、関西国際大学 椋田善之教授、大阪教育大学 小崎恭弘教授をはじめ、ご支援いただきました多くの皆様に心よりお礼申し上げます。

大阪市保育・幼児教育センター
所 長 大 西 啓 嗣

も く じ

まえがき	P. 1
第 1 章 小学校の就学前施設との連携・接続取組状況及び スタートカリキュラムの作成状況	P. 4
第 1 章－ 1 設問内容	
第 1 章－ 2 結果と分析	
第 1 章－ 3 当センターの事業展開	
第 2 章 保幼小連携・接続研修	P. 9
第 2 章－ 1 令和 6 年度 保幼小連携・接続研修	
第 1 回 保幼小のバトンをつなぐ架け橋プログラム ～子どもたちの学び・育ちが、より豊かになることを願って～ 大阪教育大学 佐久間 敦史 准教授	
第 2 回 保幼小連携・接続をすすめていくために ～他市の事例を参考に～ 四天王寺大学 田辺 昌吾 准教授	
第 2 章－ 2 令和 7 年度 保幼小連携・接続研修	
第 1 回 幼児教育と小学校教育の連携・接続と架け橋期のカリキュラム 大阪総合保育大学 神長 美津子 特任教授	
第 2 回 保幼小連携・接続のための相互理解 関西国際大学 棕田 善之 准教授	
第 2 章－ 3 令和 6・7 年度大阪市小学校教育研究会と大阪市保育・幼児教育センター との連携研修「保幼小連携・接続研修会」	
令和 6 年度 子ども目線で考えるスタートカリキュラムの作成について 関西国際大学 棕田 善之 准教授	
令和 7 年度 ともに育てよう。保幼小連携・接続 ～スタートカリキュラムをつくってみよう～ 前大阪市保育・幼児教育センター所長 大阪市総合教育センター 足立 敦彦 OEN コーディネーター	

第3章	保幼小連携・接続研究	P. 13
第3章－1	保幼小連携・接続研究の研究概要	P. 14
第3章－2	Aブロックの研究のまとめ	P. 16
第3章－3	Bブロックの研究のまとめ	P. 36
第4章	第4期保幼小連携・接続推進事業の成果と課題	P. 48
第5章	保幼小連携・接続推進事業の今後の取組	P. 52

第 1 章

小学校の就学前施設との 連携・接続取組状況及び スタートカリキュラム作成状況

「小学校学習指導要領」を始め、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等において、乳幼児期の教育・保育の重要性とともに、就学前教育と小学校教育の円滑な連携・接続が求められる中、各校園所では、様々な取組が進められています。当センターでは、平成 30 年度より、保育園所・幼稚園・認定こども園などの就学前施設と小学校をつなぐ「保幼小連携・接続」の推進に関わる研修や研究を進めてきました。本章では、令和 6 年度、7 年度における小学校と就学前施設との「連携・接続」についての取組状況等の調査と、「スタートカリキュラム作成」の状況調査の結果を紹介します。

ここで述べる内容は、あくまでも本市における「連携・接続」の傾向を示すものです。今後の改善や発展に向けて活用していただければ幸いです。

第1章－1 設問内容

大阪市立小学校では教育委員会が学校状況調査を行っている。令和6年度よりその項目に「保幼小連携」を追加した。その集計結果を共有して、下記の分析を行った。

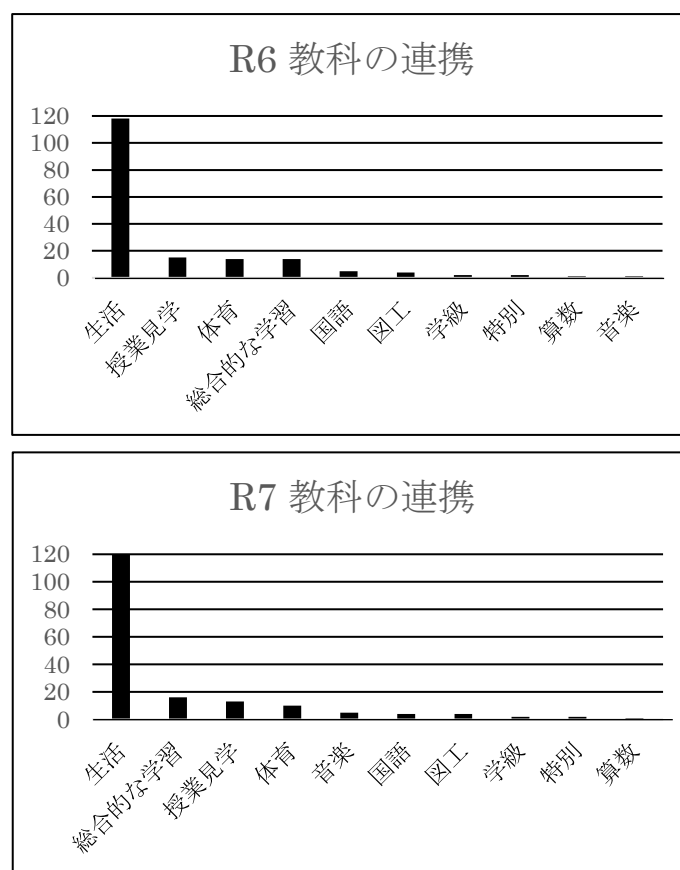
【保幼小の連携についての設問】

- 教科の連携
- 教科以外の連携
- 教職員間の連携
- スタートカリキュラムの作成について
(作成している 作成予定である 未定)
- その他の連携

市内公立小学校の回答をまとめた。

第1章－2 結果と分析

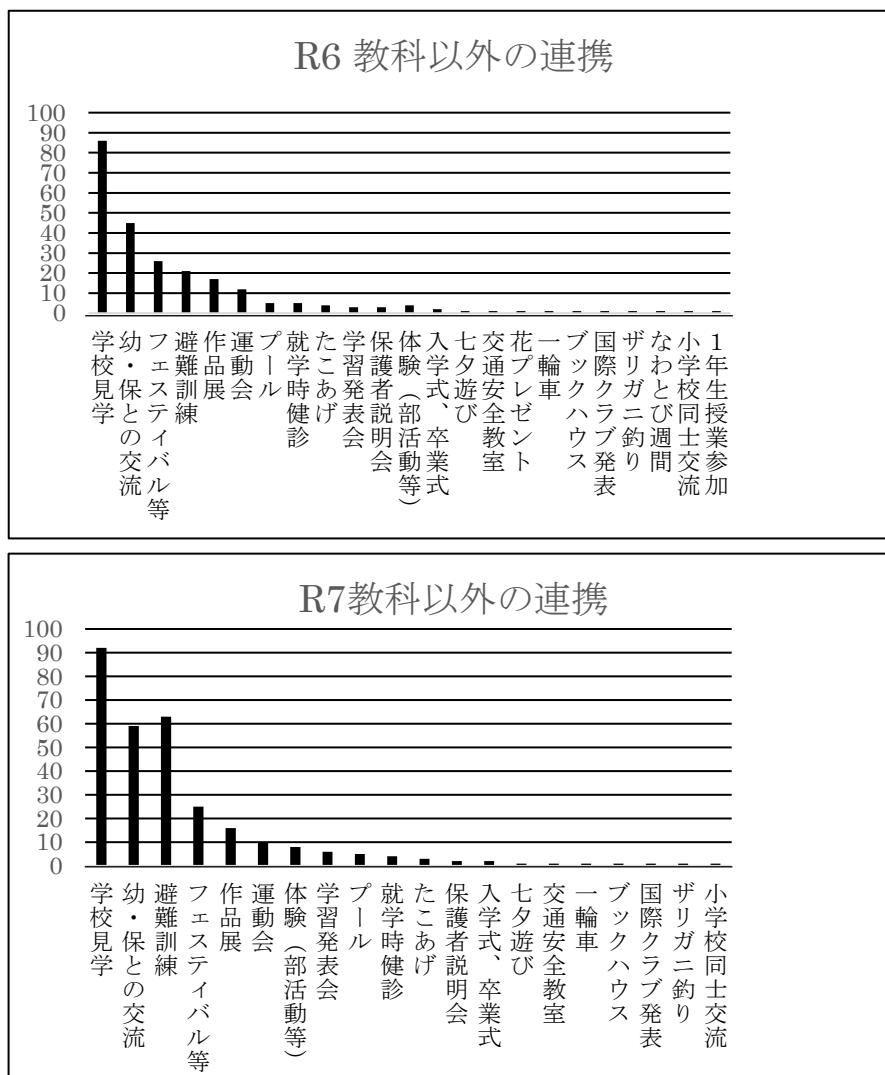
○教科の連携



《分析》

教科に関する連携では、「生活科」を中心とした連携が多く行われている。「総合的な学習」「音楽」はやや増加している一方で「体育」や「国語」「授業見学」はやや減少傾向がみられた。全体としては大きな変化はないものの、生活科や授業見学での連携が多く、次いで総合的な学習の時間での連携が増加傾向にある。様々な教科学習と重ねて取り組めるよう、工夫していることが分かった。

○教科以外の連携

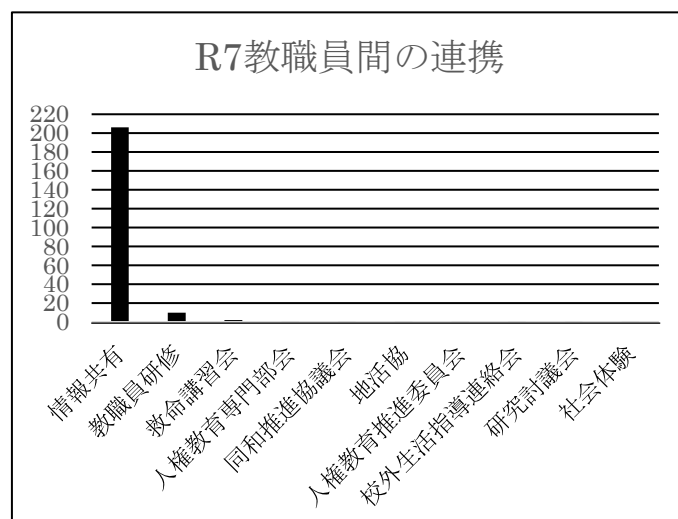
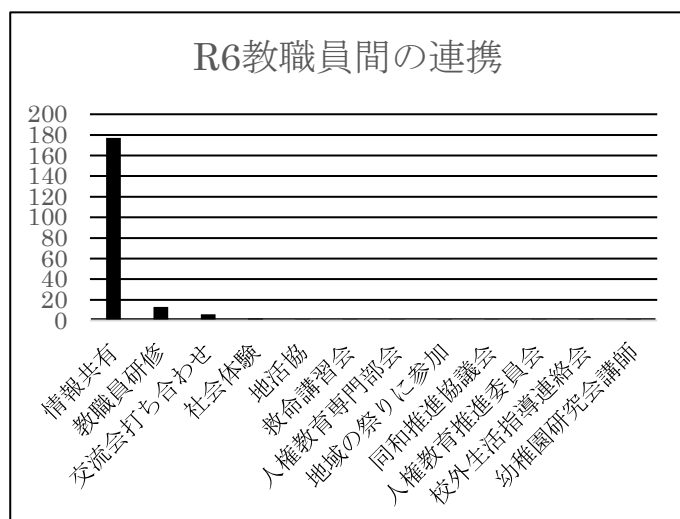


《分析》

教科以外の連携では、学校見学が最も多いが、全体的に見るとその他の様々な取組が行われていることが分かる。これまでも連携として取り組んできた運動会や作品展などの行事による連携以外にも、交通安全教室や部活動体験など、日常の活動の中で多様な取組の工夫が見られる。大幅に増加している避難訓練は、3倍となっており、近年の災害への関心の高まりを生かし、防災・安全面での取組を総合的な視点で考え、連携することが取り入れられていることが分かる。

また、小学校同士で交流を行う事例もあり、連携をより深めるための意識の高まりが感じられる結果となった。

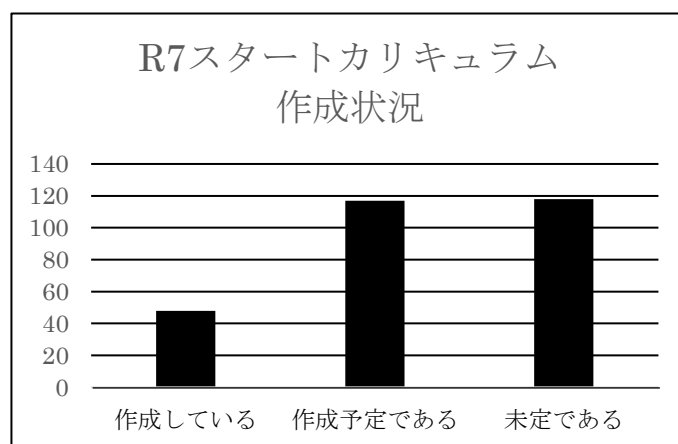
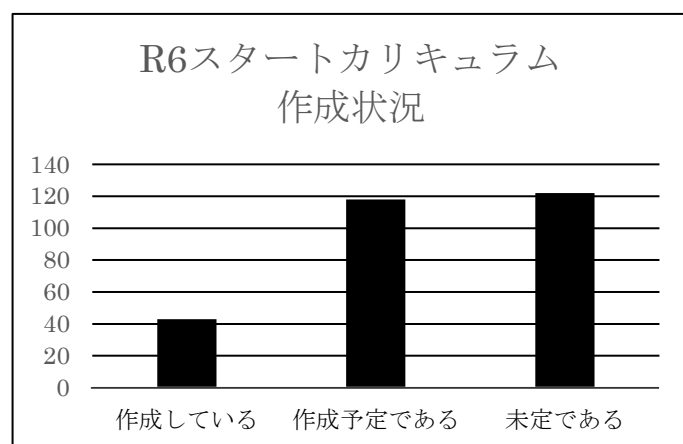
○教職員間の連携



《分析》

教職員間の連携としては主に「情報共有」となっており、全体に占める割合は92%となった。一方で「教職員研修」がやや減少、「救命講習会」がやや増加し、「研究討論会」を行っているところもあった。これらのことから、令和7年度は令和6年度より連携総数が増えつつも、内容の多様化は見られず、情報共有に重点が置かれていることが分かった。

○スタートカリキュラムの作成について（作成している 作成予定である 未定）

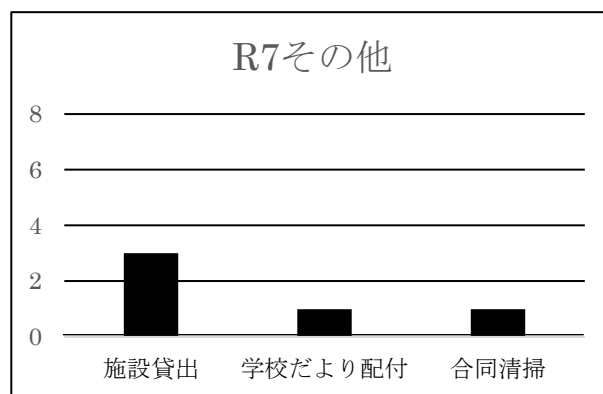
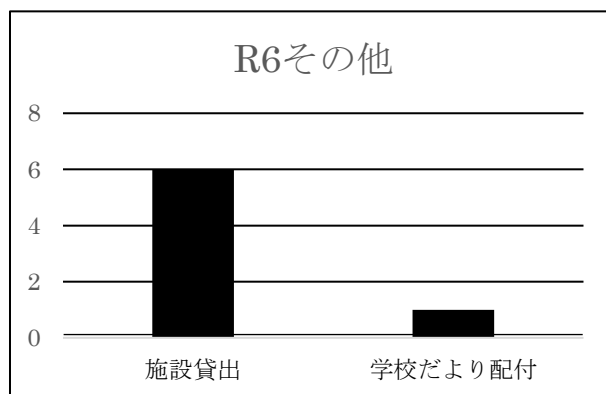


《分析》

令和7年度は、スタートカリキュラムを作成している小学校は17%、今後作成する予定があると回答した小学校は41.3%だった。

令和元年度の調査では作成している小学校は7.7%にとどまっていたため、約3倍の増加になっている。令和6年度から令和7年度にかけては大きな変化が見られない。このことから、今後もスタートカリキュラム作成に関する情報発信を継続し、各校園所の取組の支援をしていく必要があると考えられる。

○その他の連携



《分析》

校庭や図書室などの施設貸出が多い。幼稚園や保育所用に学校だよりを作成して、届ける学校もあった。令和7年度には、日常生活の中で多様な取組の工夫を行っていることが分かった。

第1章－3 当センターの事業展開

当センターの今後の事業展開（令和7年度時点）

これらの調査結果を踏まえ、関係機関と連携しながら、研修の開催や冊子『架け橋期のカリキュラム実践ハンドブック』の活用を通して、スタートカリキュラム作成に関わる情報発信を推進し、各校園所が日頃取り組んでいる活動の中から、無理なく始められる取組を効果的に活用していくことを提案し、スタートカリキュラムの普及と質の向上を図っていきたい。